

**全国児童養護施設調査 2014**  
**社会的自立に向けた支援に関する調査**

**認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル**  
**調査チーム**  
**2014 年 12 月**

## 目次

1. 社会的自立支援に向けた支援に関する調査.....	1
2. 退所直後の進路.....	2
3. 卒業後に進学した施設退所者の現況.....	3
4. 退所後に就職した施設退所者の現況.....	4
5. 退所者と連絡が取れている施設の状況.....	5
6. 連絡が取れている施設退所者の就業形態・住居・婚姻の状況.....	5
7. 施設入所者（高校生）の行動・態度.....	7
8. 入所者（高校生）の退所後の後ろ盾.....	11

# 1. 社会的自立支援に向けた支援に関する調査

ブリッジフォースマイル（以下、B4S）は2014年6月、全国の児童養護施設を対象に以下のとおりアンケートを実施しました。47都道府県の596施設にアンケート記入をお願いし、39都道府県173施設から回答を頂きました（回答率29%）（図1）。2013年の調査では、41都道府県156施設から回答を頂いていたことと比較すると、今年度は回収率が増加しました。

## ■ 調査の目的

児童養護施設などを退所した方の生活や就労の状況、施設退所前後の状況などを把握し、自立に向けた支援の課題を明らかにする。

## ■ 調査対象者

全国の児童養護施設（596か所）の職員。

## ■ 調査の方法

自己記入式のアンケートによる。

## ■ 調査の実施時期

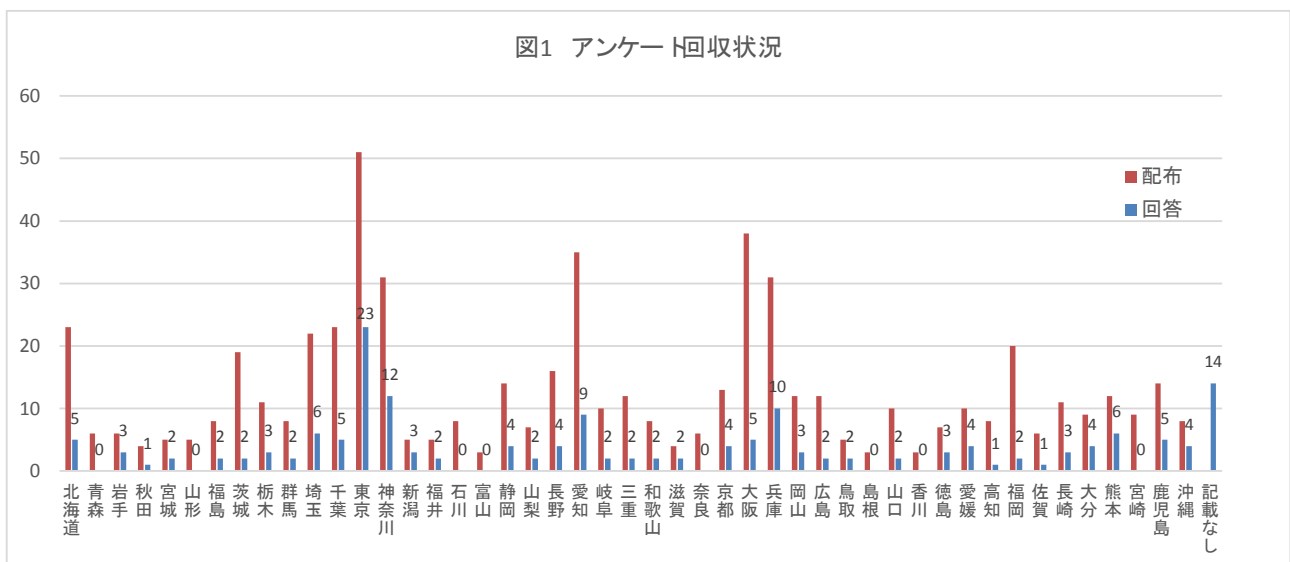
2014年6月から2014年9月まで

## ■ 回答者数

173施設（回答率29.0%）（図1）。

## ■ 調査結果の集計方法

設問ごとに、有効回答数を母数とした。返送されたアンケートの回答のうち、不明なものは電話で記入者に確認し、得た回答に応じて修正した。



## 2. 退所直後の進路

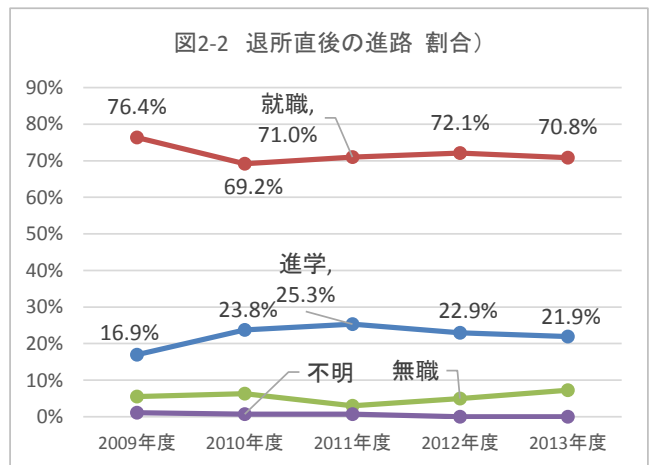
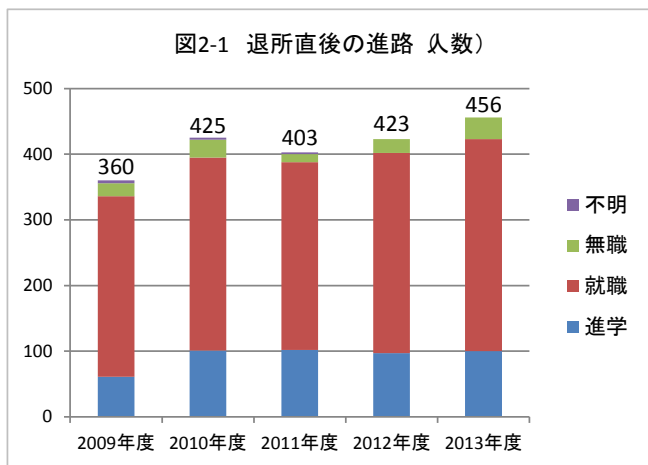
回答を得た 179 施設では、2013 年度の退所者（2014 年 3 月に施設を退所した高校生）は 456 人いました。同じ 179 施設の退所者数は、4 年前（2009 年度）よりも増加しています（図 2-1）。2013 年度の退所者 456 人の進路の内訳は、就職 323 人（70.8%）、進学 100 人（21.9%）、無職 33 人（7.2%）、不明 0 人（0%）となっています<sup>1</sup>（図 2-2）。これらの内訳を 2009 年度と比べると、就職が 5 ポイント減少した分、進学が増加しています。

### (1) 施設退所者を含めた一般の高校卒業生との比較

文部科学省が行った調査結果（平成 26 年度学校基本調査<sup>2</sup>）によると、2013 年度の高校卒業生の進路内訳は、進学 70.9%（大学・短大・専門学校含む）、就職 18.6%、無職 4.5%となっています。この割合と比較すると、施設退所者の進学は全国平均の 1/3 以下であり、進学はまだ限られた進路となっていることがわかります。

同調査の中では、4 年生大学に進んだ高校生の割合も都道府県別に算出されており、その地域差が開きつつあることは各メディアで取り上げられています<sup>3</sup>。都道府県別の進学率は、東京都の 72.5%が最高で、次いで京都府（65.4%）、神奈川県（64.3%）、兵庫県（61.7%）でした。最低は鹿児島県の 32.1%で、低い順に岩手県（38.4%）、青森県（38.6%）でした。

B4S が今回実施したアンケート調査では、都道府県別の回収状況が様々であり、その傾向を確認することはできませんでした。参考までに、アンケート結果の中では、進学率が高い順から、佐賀県の 50.0%（回答施設 1、退所者 2 人）、埼玉県 40.0%（回答施設 6、退所者 6 人）、新潟県 37.5%（回答施設 3、退所者 8 人）、東京都 36.1%（回答施設 23、退所者 61 人）でした。進学率が低いのは、秋田県・茨城県・三重県・山梨県・広島県・大分県の 0.0%（それぞれ回答施設 1、2、2、2、2、4、退所者 1、3、5、4、3、7 人）、熊本県 9.7%、徳島県 10.0%、鹿児島県 11.1%と続く。このように、都道府県別の母数が十分でないことに加え、文部科学省の調査結果と大きく異なることもあり、地域間格差について具体的に述べることは難しい状況です。



### (2) 東京都と東京都以外の比較

東京都（23 施設）と東京都以外（136 施設）の施設退所者の進路を比較すると、東京都の退所者の進

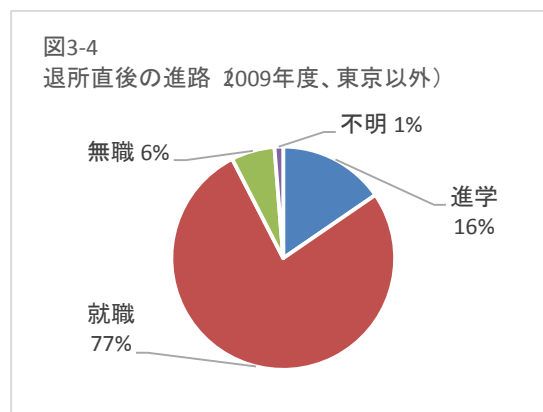
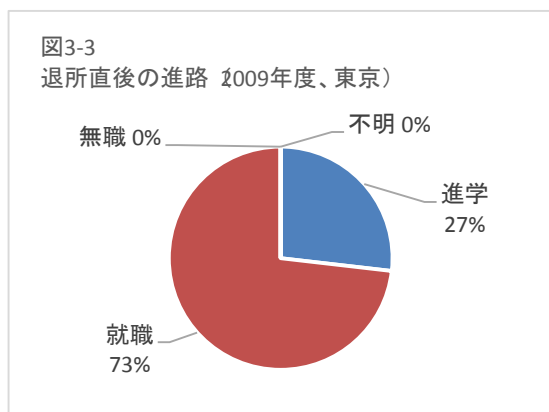
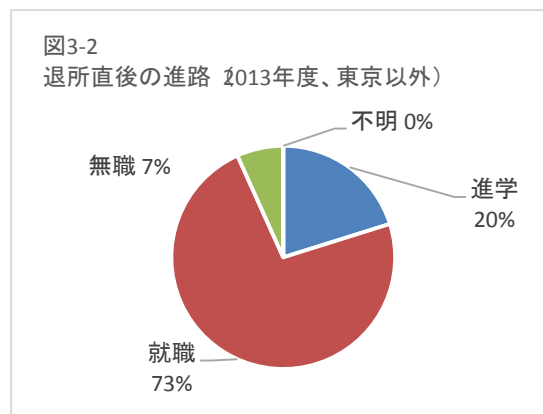
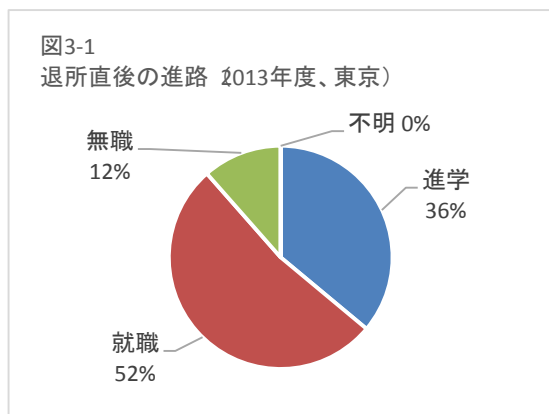
<sup>1</sup> 合計が 100%とならないのは、小数点第一位までの表記となっているため。

<sup>2</sup> 平成 26 年度の調査結果は速報のみ（2014 年 11 月 7 日現在）。  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/08/attach/1350731.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/attach/1350731.htm)

<sup>3</sup> 例えば、朝日新聞（2014 年 10 月 14 日付け）では、進学率の地域差が過去 20 年間で 2 倍になっていることを指摘し、その要因として、家計状況と大学の都市集中を挙げています。  
<http://www.asahi.com/articles/ASGBG5HCKGBGUTIL03K.html>

学率が高く、就職率が低いです。2013年度は、東京都の退所者の進学率は36%、就職率は52%であり（図3-1）、東京都以外の退所者より進学率は16ポイント高く、就職率は21ポイント低くなっています（図3-2）。なお、東京都の施設退所者のうち無職の割合は12%で、これは5ポイント高くなっています。

2009年度の退所者の進学率は東京都27%、東京都以外16%でした（図3-3）。このことから、4年前と比較すると、東京都と東京都以外の進学率の差はさらに開いていることがわかります。



### 3. 卒業後に進学した施設退所者の現況

2013年度の施設退所者のうち、卒業後に進学した退所者の現在の状況は、就学中（留年・休学なし）89.8%、就学中（留年・休学あり）5.1%、中退して就業中1.0%、中退して無職1.0%、卒業して就業中2.0%<sup>4</sup>、不明1.0%となっています<sup>5</sup>（図4）。入学してから3か月で既に10%以上が休学・留年または退学しています。

2012年度の施設退所者（つまり、高校卒業後に進学して1年3か月が経過した退所者）は、中退して就職または無職となる人がやや増えます（合わせた中退者の割合は11.7%）。この時点で留年・休学なく在学している退所者は約8割です。2011年度の施設退所者は進学して2年3か月が経過していることとなりますが、卒業後に就職する退所者が21.2%いる一方、無職となる退所者が2.0%います。この頃から、中退して就職する退所者が増えています。

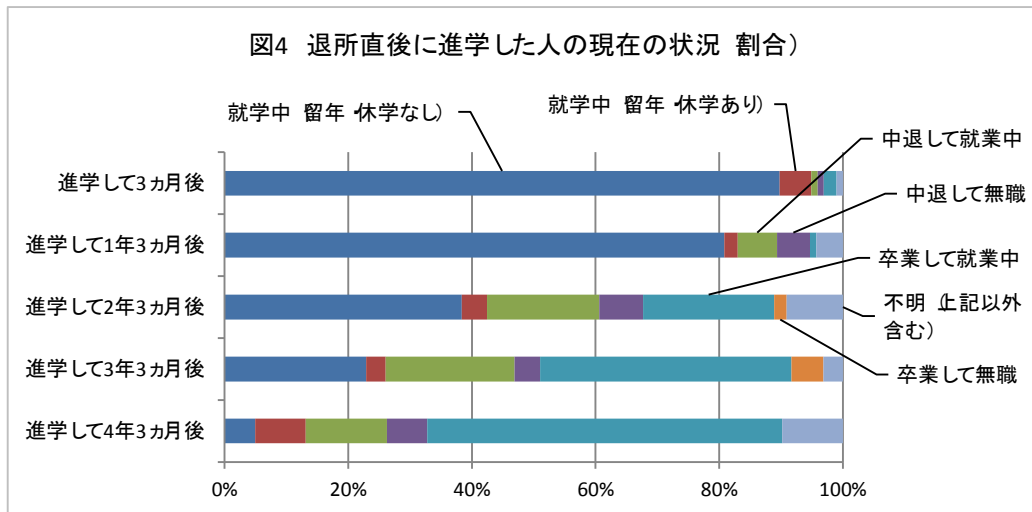
中退する退所者は時間の経過と共に増えており、その割合は進学して1年後以降、毎年、11%、25%、25%、19%と増加する傾向にあります。

<sup>4</sup> 進学後3か月後の時点で「卒業して就業中」という回答が98人中2人いたが、その内容については確認できていない。

<sup>5</sup> 合計が100%とならないのは、小数点第一位までの表記となっているため。

◆施設退所者を含めた一般の高校卒業者との比較

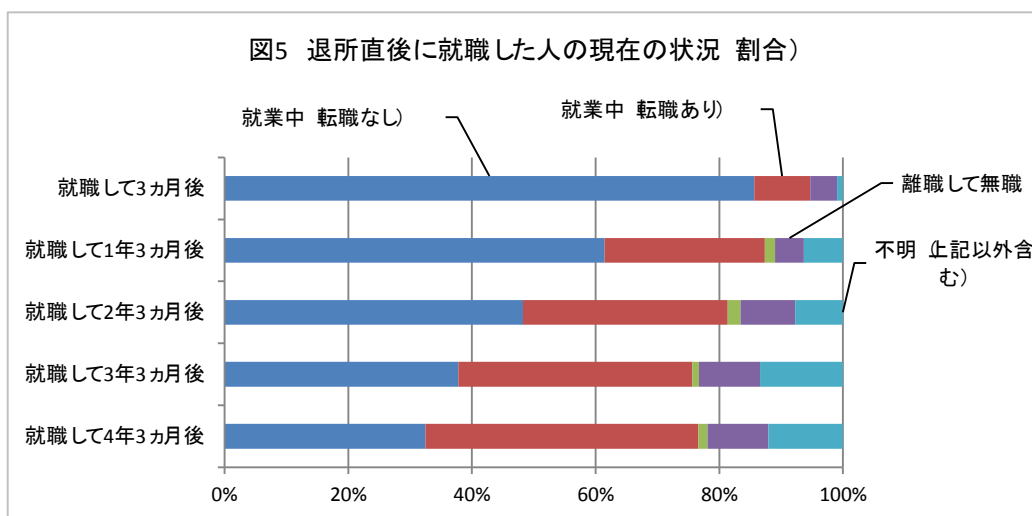
施設退所者を含めた大学生全体（4年制大学のみ）の中退の状況として、1年間経過した時点での退学率は1.8%、卒業までの退学率は8.1%でした（2014年の調査）<sup>6</sup>。これらの割合と比較しても、施設退所者の中退の割合は大きく、問題が大きいことがわかります。



4. 退所後に就職した施設退所者の現況

2013年度の施設退所者（2014年4月に就職して3か月経過した退所者）のうち、卒業後に就職した退所者の現在の状況は、就業中（転職なし）85.6%、就業中（転職あり）9.1%、離職して無職 4.4%、不明0.9%でした（図5）。就職後、僅か3か月13.5%の離職・転職があったこととなります。

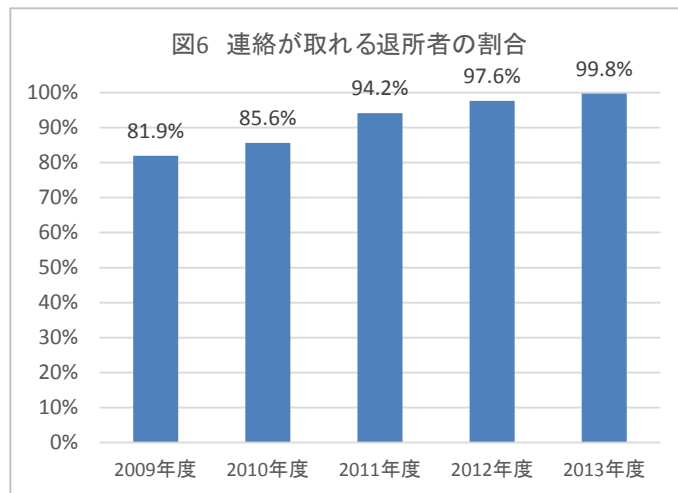
転職は就職後の年数を経るごとに増加しています。1年3か月が経過すると25%、その後1年経過するごとに33%、37%、44%と増加しています。離職して無職となる退所者の傾向も同様です。1年3か月経過すると4%、その後1年が経過するごとに8%、9%、9%と増加しています。



<sup>6</sup> 2011年から朝日新聞社と河合塾が共同で実施している、日本の全大学（通信制、大学院大学は含まず）を対象とした調査「ひらく日本の大学」。http://www.asahi.com/edu/hiraku/

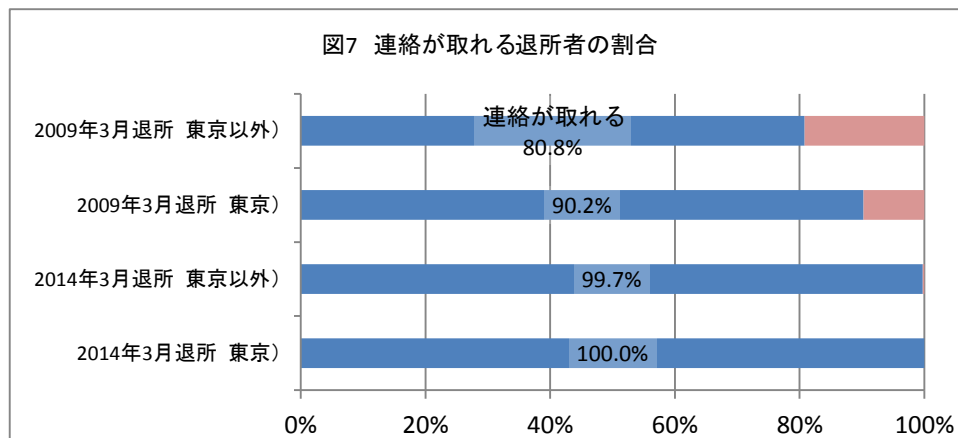
## 5. 退所者と連絡が取れている施設の状況

2013年度の施設退所者については、退所後まだ3か月が経過したのみであり、各施設はほぼ全員（99.8%）と連絡が取れる状況にあります（図6）。ここでの「連絡が取れる」とは、「退所者の住所や連絡先を知っている」ことを指します。その後、3年が経過すると連絡が取れる退所者の割合は85%、4年が経過すると81%と僅かに減少していきます。



### ◆東京都と東京都以外の比較

退所後すぐの段階では、連絡が取れる退所者の割合は東京都と東京都以外ではほとんど変わりなく、ほぼ全員と連絡が取れています。しかし、4年以上が経過すると、連絡が取れる割合は減少しています。東京都で90.2%、東京都以外で80.8%であり、その差は約10ポイントに開いています（図7）。



## 6. 連絡が取れている施設退所者の就業形態・住居・婚姻の状況

施設退所者の就業形態を見ると、正規社員の割合が年々減少しています。就職後すぐは68.9%が正規社員ですが、4年経過した退所者の正規職員の割合は52.7%であり、16ポイントの開きがあります（表1）。その分、非正規社員（パート、アルバイトを含む）の割合は23.5%が34.4%となっており、11ポイント増加しています。

住居の状況として、退所後の年数とはほぼ関係なく、約20%の退所者が自分の家族・親戚と同居して

います。退所後の年数により違いがあるのは、1人暮らしをする退所者が徐々に増加する点です（2013年度退所者 33.2%、2009年度退所者 41.7%）。これは、寮で暮らす退所者の割合が同程度減少していることがその要因にあると考えられます。

婚姻状況は、退所後すぐの段階ではほぼ未婚ですが、1年ごとに僅かにその割合が減少し、4年3か月が経過した退所者は7.5%が既婚となっています。国内全体の婚姻状況と比較すると、年齢階級別の初婚率を見ると、20～24歳男性で14.1%、女性で20.2%であることを考慮しても<sup>7</sup>、施設退所者の婚姻が特別に早いものではないことがわかります。

表1 連絡が取れる退所者の現況、就業形態、住居状況、及び婚姻状況

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
現在の状況	就学中	3.4%	8.0%	13.5%	19.9%	20.9%
	就業中	81.8%	74.0%	70.4%	69.2%	69.2%
	無職	8.9%	10.2%	9.5%	7.0%	8.1%
	不明(上記以外含む)	5.8%	7.7%	6.6%	3.9%	1.8%
就業の形態	正規社員	52.7%	52.7%	54.5%	61.2%	68.9%
	非正規(パート、バイト含む)	34.3%	36.8%	33.2%	29.9%	23.5%
	不明(上記以外含む)	13.1%	10.5%	12.3%	9.0%	7.6%
住居の状況	自分の家族・親戚と同居	20.0%	19.0%	17.7%	22.1%	18.9%
	1人暮らし	41.7%	37.4%	38.0%	39.2%	33.2%
	寮	11.9%	14.2%	17.7%	18.1%	25.5%
	友人・パートナーと同居	6.8%	9.6%	6.6%	3.9%	2.2%
	福祉施設・グループホーム	12.2%	12.5%	12.4%	13.2%	17.4%
	不明(上記以外含む)	7.5%	7.4%	7.7%	3.4%	2.9%
婚姻の状況	結婚していない(子どもがいない)	84.3%	81.3%	91.0%	97.0%	98.0%
	結婚していない(子どもがいる)	1.7%	1.9%	0.8%	0.2%	0.0%
	結婚している(子どもがいる)	6.1%	8.0%	4.0%	0.2%	0.0%
	結婚している(子どもがいない)	1.4%	1.6%	1.6%	0.5%	0.0%
	不明(上記以外含む)	6.5%	7.1%	2.7%	2.0%	2.0%

#### ◆東京都と東京都以外の比較

就業形態について、2013年度の退所者については、東京都の施設退所者の方が東京都以外の退所者よりも、正規社員の割合が小さく（69.6%＞67.7%）、無職の割合も大きくなっています（8.5%＞6.6%）（表2）。これは、2009年度の退所者にも同様の傾向にあります。就業状況は、東京都以外のほうがより好条件にあると考えられます。

住居の状況については、自分の家族・親戚と同居している退所者は、2013年度退所者の中では、東京都の退所者の方が東京都以外の退所者よりもその割合が僅かに大きいです（21.3%＞18.4%）、2009年度の退所者についてはその割合が逆転しています（10.8%＜21.0%）。同様に、1人暮らしをする退所者も、2013年度は東京都の方が高いですが（37.7%＞33.2%）、2009年度は東京都の方が低い（40.5%＜42.0%）。東京都の退所者は、その分、友人・パートナーと同居する割合、福祉施設・グループホームに居住する割合が高くなっています。

婚姻状況については、東京都は2013年度も2009年度の退所者もゼロですが、東京都以外では2009年度の退所者の8.8%が結婚しており、婚姻率が高い状況になります。2009年度の施設退所者のうち、

<sup>7</sup> 厚生労働省「人口動態統計年報」。http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii09/index.html



子どもがいる退所者は東京都、東京都以外ともに僅かですが、未婚で子どもがいる割合は東京都でより高く、既婚で子どもがいる割合は東京都以外でより高くなっています。

表2 連絡が取れる退所者の現況、就業形態、住居状況、及び婚姻状況

		2009年度の退所者		2013年度の退所者	
		東京都	東京都以外	東京都	東京都以外
現在の状況	就学中	5.4%	3.1%	36.1%	18.9%
	就業中	86.5%	81.5%	54.1%	71.0%
	無職	2.7%	9.4%	6.6%	8.5%
	不明(上記以外含む)	5.4%	5.9%	3.3%	1.6%
就業の形態	正規社員	37.5%	54.9%	67.7%	69.6%
	非正規(パート、バイト含む)	53.1%	31.5%	32.3%	21.7%
	不明(上記以外含む)	9.4%	13.6%	0.0%	8.7%
住居の状況	自分の家族・親戚と同居	10.8%	21.0%	21.3%	18.4%
	1人暮らし	40.5%	42.0%	37.7%	33.2%
	寮	10.8%	12.1%	13.1%	27.2%
	友人・パートナーと同居	8.1%	6.6%	1.6%	2.3%
	福祉施設・グループホーム	29.7%	9.7%	21.3%	16.3%
	不明(上記以外含む)	0.0%	8.6%	4.9%	2.6%
婚姻の状況	結婚していない(子どもがいない)	89.2%	83.9%	95.1%	98.4%
	結婚していない(子どもがいる)	2.7%	1.6%	0.0%	0.0%
	結婚している(子どもがいる)	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%
	結婚している(子どもがいない)	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
	不明(上記以外含む)	8.1%	6.3%	4.9%	1.6%

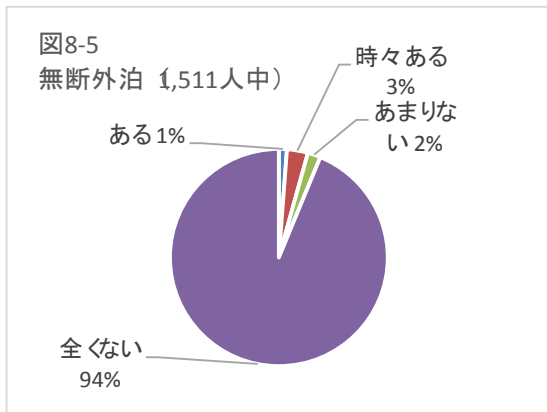
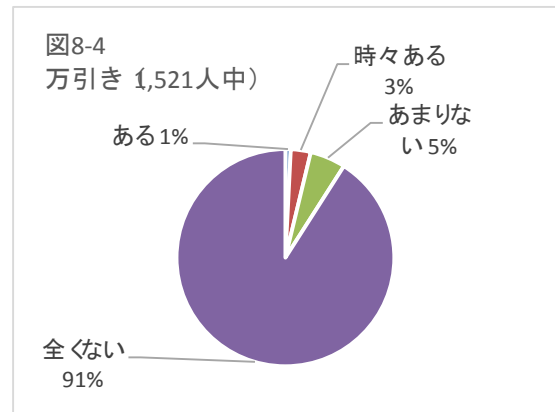
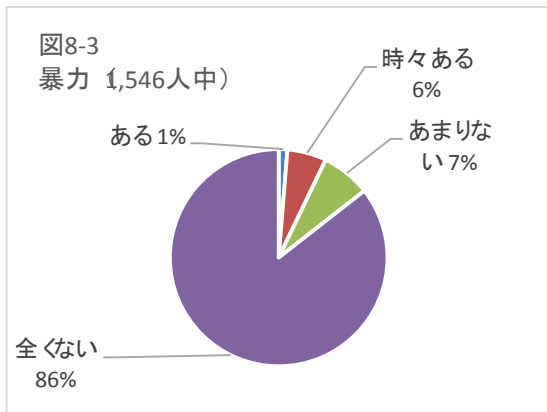
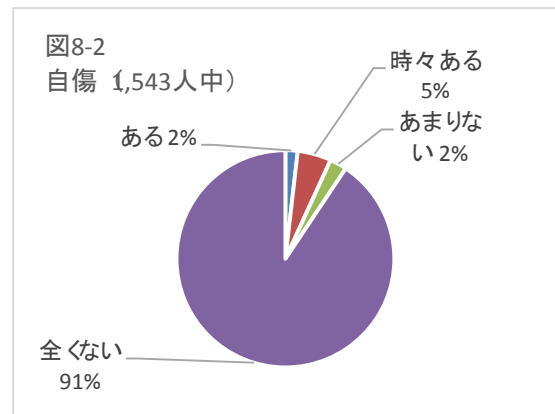
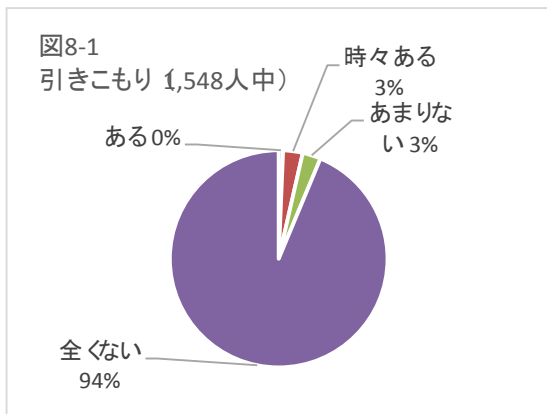
## 7. 施設入所者（高校生）の行動・態度

今回の調査では、現在施設に入所している高校生の行動と態度について、施設職員にアンケート調査を行いました。

### (1) 施設入所者（高校生）の行動

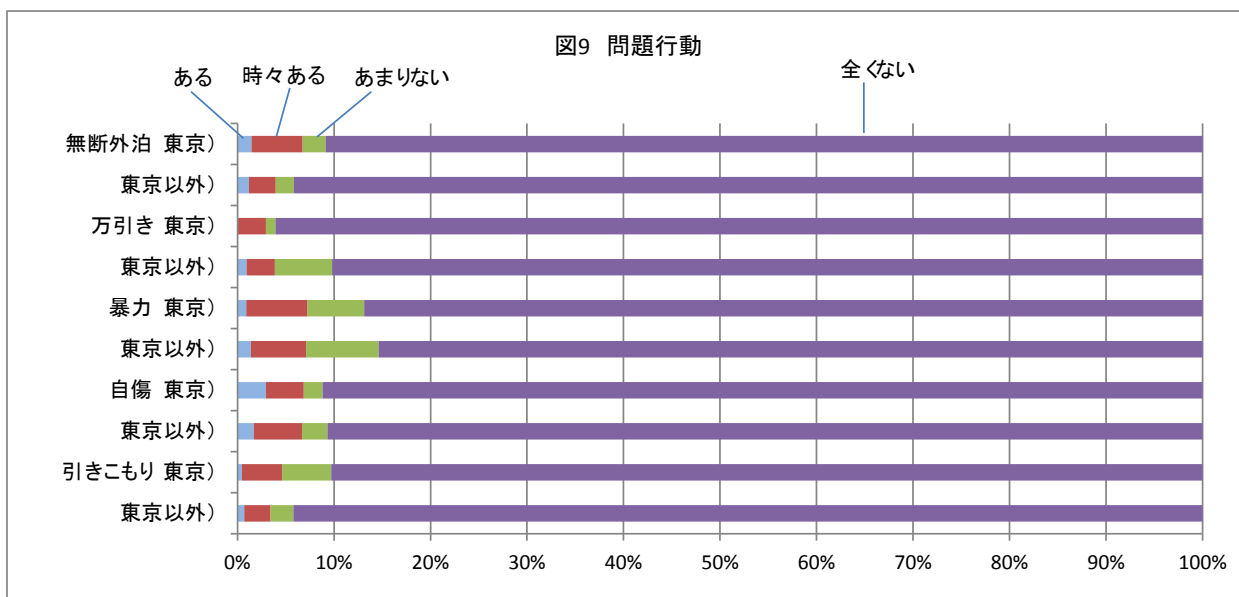
施設に入所している高校生の問題行動は少ないです。引きこもり、自傷、暴力、万引き、無断外泊のいずれも全体の3~7%のみであり、このうち、僅かに多いのは暴力で、「ある」1%（20人）、「時々ある」6%（91人）となっています（図8-1~8-5）。

その他の問題行動として挙げられたのは、約1,500人の入所者のうち、喫煙8人、不登校6人、異性問題6人、盗み5人、無断外出2人、コミュニケーション問題1人、情緒不安定1人、ごまかし1人、他者の巻き込み行動1人、夜尿1人でした。いずれも全体の1%に満たない割合です。



◆東京都と東京都以外の比較

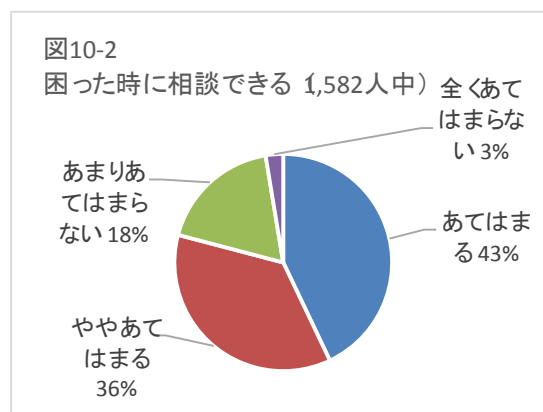
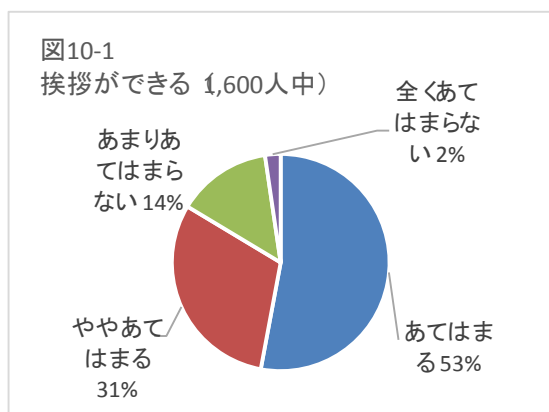
無断外泊、万引き、暴力、自傷、引きこもりともに、「ある」「時々ある」入所者の割合は全体的に僅かで、東京都と東京都以外の差はほとんどありません(図9)。僅かな差があるのみですが、東京都では無断外泊、引きこもりが、東京都以外では、万引きが多くなっています。



## (2) 施設入所者（高校生）の態度

施設の高校生の態度については、「挨拶がよくできている」に「あてはまる」が53%、「ややあてはまる」が31%、合わせて84%となっています（図10-1）。また、「困った時に相談できる」入所者は、「あてはまる」が43%、「ややあてはまる」36%、合わせて79%です（図10-2）。他方、「大人に不信感を持つ」入所者は、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて44%であり、約半数の入所高校生は大人に不信感を持っています（図10-3）。

入所する高校生が自分自身に対する態度として、「自己肯定感がある」「将来に対して明るい展望を持つ」と回答したのはいずれも、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて44%（図10-4、10-5）。施設入所に限らず、一般の高校生を対象とした調査<sup>8</sup>では、「私は価値のある人間だと思う」と回答した高校生は36%、「将来に不安を感じている」と回答した高校生は77%であったことと比較すると、施設に入所していることが自分自身や将来を悲観する要因とはなっていないのではないかと考えられます。



<sup>8</sup> 財団法人一ツ橋文芸教育振興協会・財団法人日本青少年研究所が実施した国際比較調査「高校生の心と体の健康に関する調査」（2011年3月）。<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/research/2011/gaiyo.pdf>

図10-3  
大人に不信感がある 1,583人中)

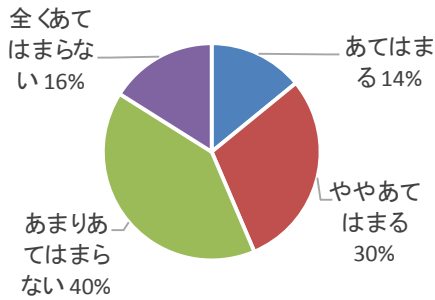


図10-4  
自己肯定感がある 1,561人中)

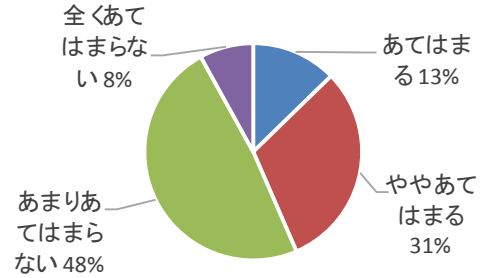
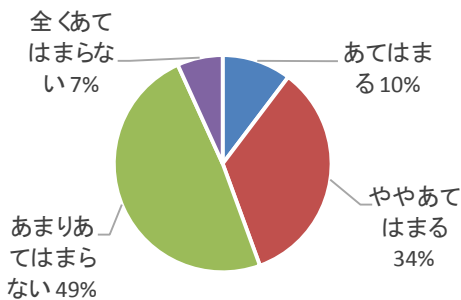


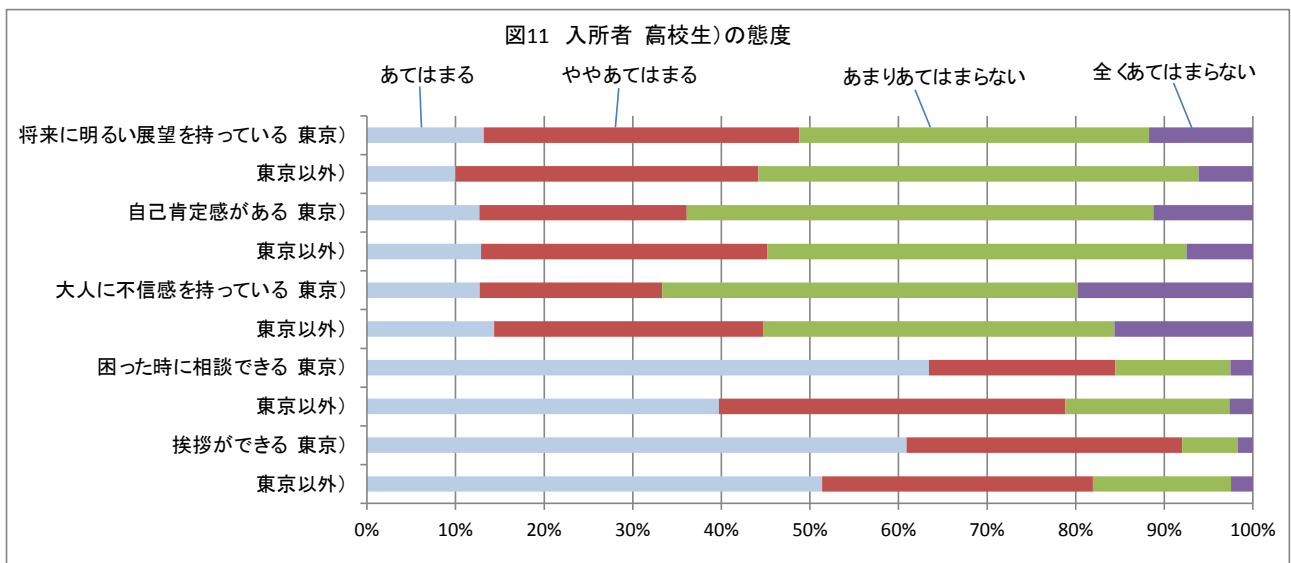
図10-5  
将来に対し明るい展望がある 1,564人)



◆東京都と東京都以外の比較

「将来に対して明るい展望を持っている」入所者の割合は、東京都においてやや高いですが（48.8% > 44.2%）、他方、「自己肯定感を持っている」割合は東京都の方がやや小さくなっています（36.1% < 45.2%）（図 11）。

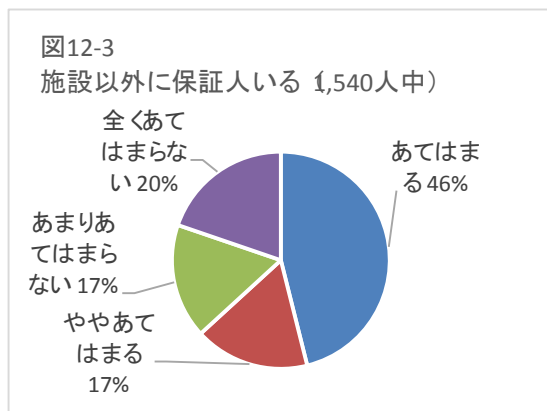
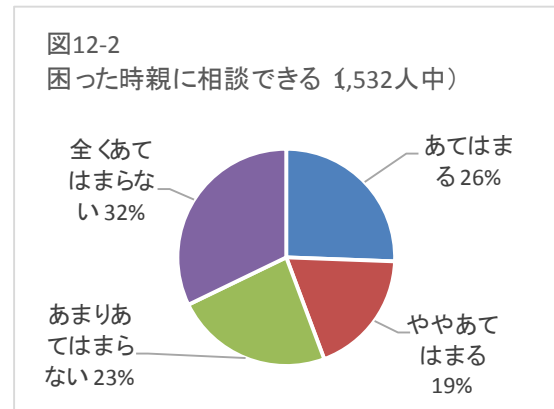
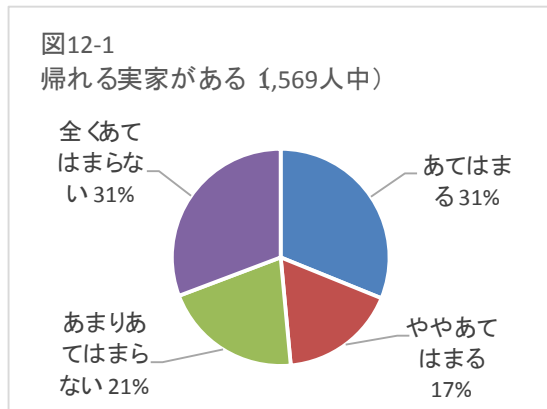
また、東京都の入所者の方が、「大人に対して不信感を持っている」割合が東京都以外よりも小さく（33.3% < 44.8%）、これが「困った時に相談できる」「挨拶ができる」に繋がっていると考えられます（84.5% > 78.8%、92.0% > 81.9%）。



## 8. 入所者（高校生）の退所後の後ろ盾

帰ることのできる実家（親戚宅を含む）があるのは、入所する高校生の48%となっていますが、他方で、帰ることのできる実家（親戚宅）が全くないと回答した入所者も31%にも上ります（図12-1）。困った時に親に相談できる入所者の割合については、帰る実家のある入所者とほぼ同様に47%となっています（図12-2）。

施設以外に保証人がいるかどうかについては、上記の割合よりも高く、「あてはまる」46%、「ややあてはまる」を含めると63%となっています（図12-3）。ただし、保証人が全くいないと回答した入所者も20%います。



### ◆東京都と東京都以外の比較

退所後の後ろ盾、という点では、東京都以外の退所者の方が好条件にあると言えます。困った時に親に相談できる入所者（「あてはまる」「ややあてはまる」の合計）は、東京都で36.4%、東京都以外では46.0%となっています（図13）。施設以外の保証人についても同様で、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせると、東京都の入所者が37.6%、東京都以外の入所者が67.4%となっています（30ポイントの差）。帰れる実家（親戚宅を含む）があるかについても、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて東京都で32.1%、東京都以外では51.0%と、19ポイントの差が開いています。

図13 退所後の後ろ盾

